

古くから日本では、風や波、陽の光、夜のしじま、鳥のさえずり、人間の喜びや悲しみも表現できる楽器として、琴が親しまれてきた。だが、琴は持ち運びには大きくて重く、高価であることから、年々奏者が減りつつあった。

そんなとき、邦楽愛好家の水原正氏が、産業技術センターにリクエストを持ちかけた。「もっと小さくて軽い琴ができれば、子どもたちや多くの人たちに触れる機会ができるのでは」。

水原氏は自らの手で、板に弦を張った試作品を作り、産業技術センターから紹介を受けた岩手木工センターに持ち込んだ。依頼を受けた職人たちは、介護用の椅子や車椅子などに丸みをつけるためにその技術を応用したことはあったが、楽器を作ったことはない。未知の挑戦に不安がよぎるが、水原氏の情熱に賛同し、小型琴作りを引き受けた。

スタート時から携わった渡引建具店の渡引勝氏をはじめ職人たちは、楽器の研究から取りかかった。関東まで足を運び、和楽器の全国大会で、江戸琴や福山琴などを見学。多くの楽器を目にすることで、琴作りの糧へと変えた。作業は順調に進み、いよいよ曲げ木技術を応用する



もり
おか
ブランド
物語

小型
琴

「和音」

か
ず
ね

桐板作りの場面がやってきた。まずはパイプの曲線に押しつけてみたがうまくいかない。ならばと考え直し、たどり着いたのは、曲線の型を作り、前後からプレスする方法だった。調整を繰り返し、薄いベニヤ板4枚を重ねて丁度よい曲線の合板を作ることに成功した。

こうしてでき上がった小型琴「和音」で、岩手木工センターは「グッドデザイン賞」や「全国地場産業優秀技術・製品表彰優秀賞」など数多くの賞を受賞した。

現在では、全国各地で「和音」教室が開かれ、多くの人たちが琴に触れるようになった。その中でも東京・埼玉の活動が盛んで、大きく広がりを見せている。岩手県内にも30教室あるほか、下の橋中学校では音楽の必修科目として学んでいる。

琴を身近にグッと引き寄せた「和音」。興味のある方は、事務局（TEL 019-622-4682）へ。

盛岡特産品ブランド認証委員会

〒020-0055 岩手県盛岡市繁字尾入野 64-102
代表電話 019-689-2201 ファックス 019-689-2212